

民報 ゆうばり

結党100年、戦争に反対した唯一の党!

戦争に行くのは子どもたち、今、大人が頑張るとき!



由仁町元気館で
決起集会開催

7月の参議院選挙「決起集会」が、5月30
を前にして「参議院選 日、由仁町で開催され
勝利! 党と後援会の ました。

会場になった由仁町元気館・フィットネスには、1市4町(夕張・栗山・由仁・長沼・南幌)から約50名の後援会員が参加しました。

Gブラザーズの3人が、オープニングで、替え歌「戦争させない大人たち」、「戦争はもういやだーウクライナバージ



「友よ」の3曲をギター伴奏で歌い会場を盛り上げました。

主催者として日本共産党南空知上田久司地区委員長あいさつした後、元衆議院議員

「先日、ロシア外交官が、『もう、プーチンにはついていけない』との理由で辞任しました。ロシア国内にも、戦争

「友よ」の3曲をギター伴奏で歌い会場を盛り上げました。

主催者として日本共産党南空知上田久司地区委員長あいさつした後、元衆議院議員

「先日、ロシア外交官が、『もう、プーチンにはついていけない』との理由で辞任しました。ロシア国内にも、戦争

プーチンにはついていけない! ロシア外交官が辞任!

はたやま和也さんが、約20分話をしました。

「先日、ロシア外交官が、『もう、プーチンにはついていけない』との理由で辞任しました。ロシア国内にも、戦争

最後に、日本共産党南空知後援会熊谷泰昌世話人代表の音頭、団結ガンパローで、決起集会は終了しました。

声の宣伝と憲法リーフのポスト イン行動 新婦人夕張支部

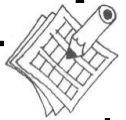
6月5日、10時から11時まで、宮前町の光・憩・新よ団地で、支部委員が集まり、街頭からの訴えを行いました。



ロシアのウクライナ侵略の暴挙は国際世論で包囲を!! 戦争はしないという憲法9条を持つ日本は、軍事に頼るのではなく平和外交で国際世論をリードせよ!
・アベノミクスの失敗による急激な円安が物価高騰に追い打ちをかけています。
ロシアのウクライナ侵略に乗じて、防衛費を増額とはとんでもないこと。

優先すべき政治課題は、憲法・年金医療・介護・景気・雇用対策です!!

私たちの生活を守るために、7月の参議委選挙では、必ず憲法を守る議席を増やし、みなさんと共に改憲阻止への結果をつくりだし、未来につなげましょうと訴えました。
声の宣伝とあわせて、新婦人の憲法リーフ「日本国憲法ってすごい」をおよそ200部ポストインしました。



くずさん 夕張歴史散歩 (180)

石炭のはなし (馬のはなし②)

初めのころの坑内での石炭運搬は、馬によるものでしたが、機械化がすすみ電車が石炭を満杯に積んだ石炭車が走り、ベルトコンベアーが流れるようになりました。
しかし、馬の役割は終わったわけではありません。

山坂の炭住(炭鉱労働者が住む長屋、地域を言う)、特に冬の炭住への山炊き炭(家庭に配達される生活用の石炭)の配炭は、やはり馬によるが多かったのです。

「馬力」という言葉がありますが、すべて力の必要な時には馬が使われます。夕張でも、自動車一般化するまでは「馬」がすべての運搬手段の中心でした。

春の風物詩

自動車と違って馬は生物ですので、当然排泄物が発生します。しかもそれは所かまわず、為されます。冬期間はみるまに凍結しますが、春先になるとそれが溶け出し、春の突風にのって飛び回ります。それを私たちは、馬糞風と呼んでいます。春の風物詩の一つでした。

気つづの勇み肌

主役は力持ちの馬である筈ですが、その馬を上手にぎよするのが飼主の馬丁です。しかし、炭鉱では「馬追い」で通っていました。冬の坂道を馬糞の上に乗り皮の手綱を鞭に、愛馬の尻を叩いて気合を入れていました。

そんな荒くれ男の中に女性の「馬追い」もいました。よく下校の途中に馬糞の後ろに走り乗ってはどなられました。気つづの良い女性でした。

馬追いの住宅

この「馬追い」の人たちの住宅が特徴的でした。京都地方の「伊根の舟屋」みたいに、階下が馬屋で二階に住宅が造られています。ここではまさに「馬が主人公」です。



岩淵 友「国会かけある記」
参議院議員
岩淵 友

訴えが共感呼ぶ

小樽と札幌で山下芳生副委員長、はたやま和也さん、佐々木とし子さんと訴えました。現地にも多くの方に足を運んでいただき、オンラインでも全道のみなさんに視聴いただきました。ありがとうございます。

冷たい風が吹くなかにもかわわらず、街頭には「ストップ改憲」「ロシアのウクライナ侵略許さない」などの横断幕やプラスタアがあちこちに。戦争をさせないという熱い思いを感じました。

信号待ちで目の前に停まった車の窓を開いて、聞いてくれ、「高すぎる学費はせめて半額に」との訴えに、学生のみなさんが拍手してくれました。党の訴えが響き合っていることを実感しています。

原発避難者訴訟で東京電力の賠償が確定したことを受け、東電が原告に対し「人生を狂わせ、取返しのつかない被害を及ぼした」と謝罪しました。訴訟を起こさなくても自らの責任を認め謝罪するのが当然ではないか。原発や石炭火力をやめ、省エネと地域と共生する再生可能エネルギーの導入を進めてこそ、エネルギーの海外依存から抜け出し、地域に雇用をつくり経済を元気にすることにつながります。

札幌地裁は津波対策が不十分だとして、泊原発の運転差し止めを命じました。泊原発が停止して10年。道民のみなさんの世論と運動が再稼働を許してきませんでした。

いよいよ選挙です。泊原発を再稼働させず廃炉させる。そのために国会に押し上げてください。全力を尽くす決意です。